

公表資料

平成23年度の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しについて

平成23年1月28日

第5回理事会

社団法人 日本酪農乳業協会

1. 地域別の生乳生産量の動向

【北海道】

・第1四半期989千トン（前年見込み対比98.5%、以降同じ）、第2四半期984千トン（99.7%）、第3四半期949千トン（100.6%）、第4四半期967千トン（102.0%）で、年度合計3,890千トン（100.2%）と見通される。

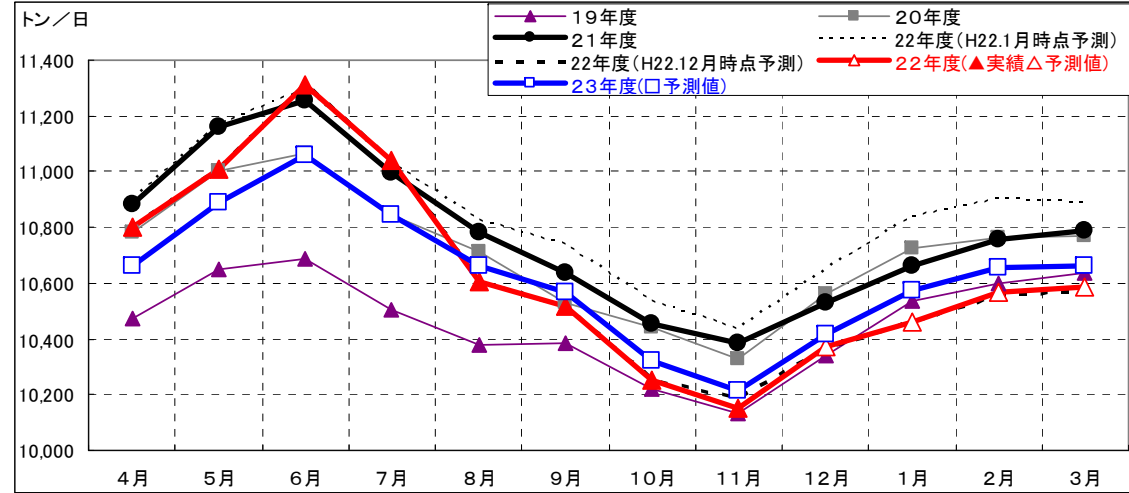
【都府県】

・第1四半期974千トン（96.8%）、第2四半期885千トン（97.0%）、第3四半期889千トン（97.3%）、第4四半期934千トン（98.4%）で、年度合計3,682千トン（97.4%）と見通される。

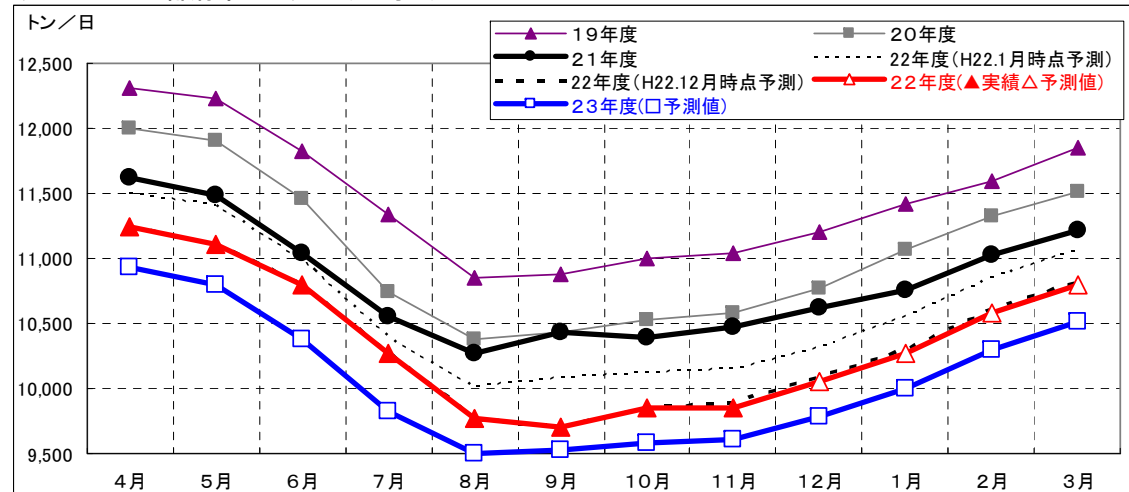
【全国】

・全国トータルの生乳生産量は、第1四半期1,963千トン（97.7%）、第2四半期1,869千トン（98.4%）、第3四半期1,838千トン（99.0%）、第4四半期1,902千トン（100.2%）で、年度合計7,571千トン（98.8%）と見通される。

グラフ1-1：北海道の生産量(日均量)



グラフ1-2：都府県の生産量(日均量)



グラフ1-3：全国の生産量(日均量)

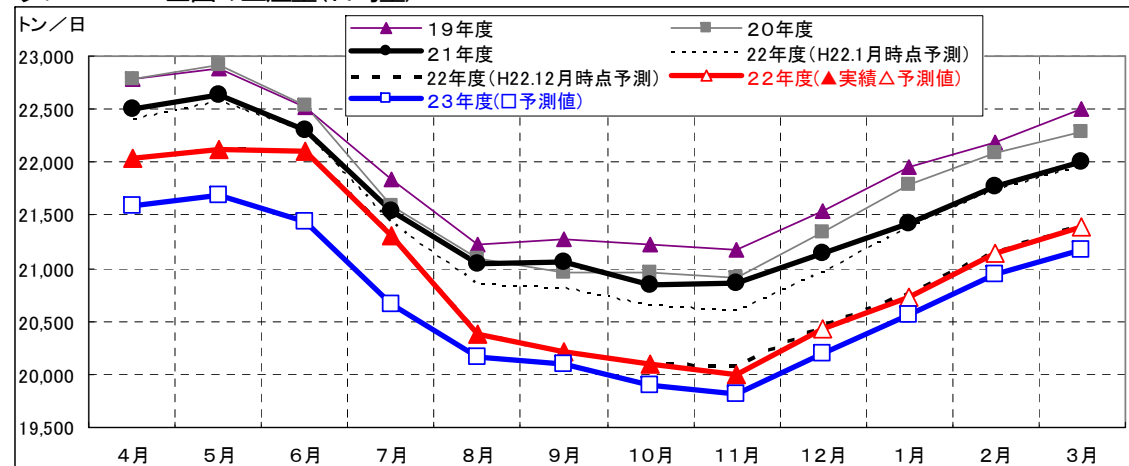


表1-1：平成22年度 地域別生乳生産量の見通し

	全国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	661	98.0%	324	99.3%	337	96.7%
5月	686	97.7%	341	98.7%	344	96.8%
6月	663	99.2%	339	100.5%	324	97.8%
7月	661	98.9%	342	100.4%	318	97.4%
8月	632	96.8%	329	98.4%	303	95.2%
9月	606	95.9%	315	98.8%	291	93.0%
10月	623	96.5%	318	98.1%	305	94.8%
11月	600	95.9%	305	97.8%	296	94.1%
12月	633	96.6%	322	98.5%	312	94.7%
1月	643	96.8%	324	98.2%	318	95.4%
2月	592	97.1%	296	98.3%	296	96.0%
3月	663	97.2%	328	98.1%	335	96.3%
第1四半期	2,010	98.3%	1,005	99.5%	1,006	97.1%
第2四半期	1,899	97.3%	986	99.2%	912	95.2%
第3四半期	1,857	96.3%	944	98.1%	913	94.5%
第4四半期	1,898	97.0%	949	98.2%	949	95.9%
上期	3,909	97.8%	1,991	99.3%	1,918	96.2%
下期	3,755	96.7%	1,892	98.2%	1,862	95.2%
年度	7,664	97.2%	3,883	98.8%	3,780	95.7%

表1-2：平成23年度 地域別生乳生産量の見通し

	全国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	648	97.9%	320	98.7%	328	97.2%
5月	672	98.0%	338	98.9%	335	97.2%
6月	643	97.0%	332	97.8%	311	96.1%
7月	641	97.0%	336	98.2%	304	95.6%
8月	625	99.0%	331	100.6%	295	97.2%
9月	603	99.4%	317	100.5%	286	98.3%
10月	617	99.0%	320	100.7%	297	97.3%
11月	595	99.1%	306	100.6%	288	97.5%
12月	626	98.9%	323	100.4%	303	97.3%
1月	638	99.2%	328	101.0%	310	97.3%
2月	608	102.6%	309	104.4%	299	100.8%
3月	657	99.0%	331	100.7%	326	97.3%
第1四半期	1,963	97.7%	989	98.5%	974	96.8%
第2四半期	1,869	98.4%	984	99.7%	885	97.0%
第3四半期	1,838	99.0%	949	100.6%	889	97.3%
第4四半期	1,902	100.2%	967	102.0%	934	98.4%
上期	3,832	98.0%	1,973	99.1%	1,859	96.9%
下期	3,740	99.6%	1,917	101.3%	1,823	97.9%
年度	7,571	98.8%	3,890	100.2%	3,682	97.4%
閏年修正						
年度	-	98.5%	-	99.9%	-	97.1%

【生乳生産量予測の前提】

注1) 全国の予測値は、指定団体ブロック区分の生乳生産量予測値を合算して算出。
 注2) 生乳生産者は計画生産に取り組んでいるが、本需給見通しは、現状の基調を基礎に算出している。

2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳】

・第1四半期 761千kl (97.6%)、第2四半期 752千kl (96.2%)、第3四半期 738千kl (95.6%)、第4四半期 693千kl (96.5%) で、年度合計 2,944千kl (96.5%) と見通される。

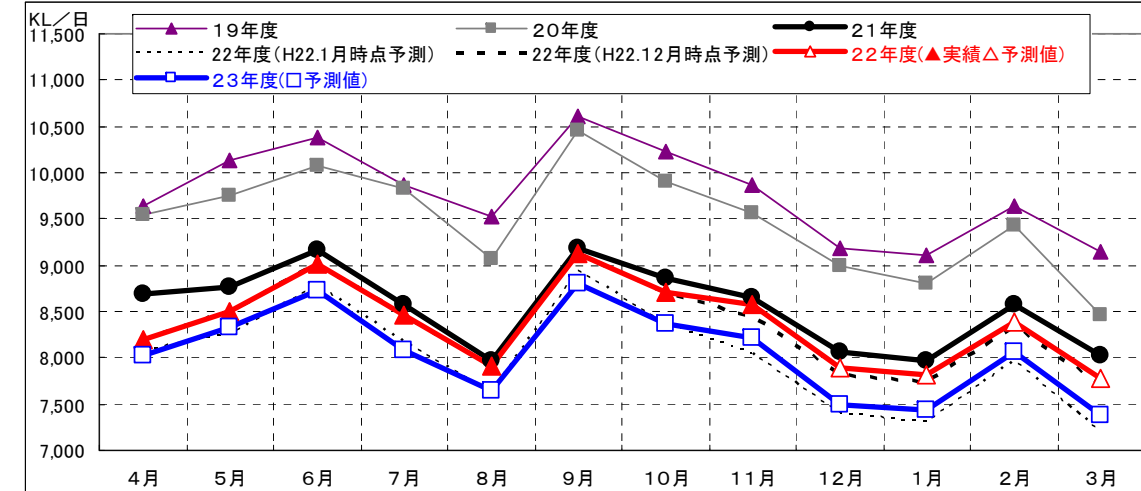
【加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

・第1四半期 486千kl (101.4%)、第2四半期 534千kl (100.5%)、第3四半期 470千kl (101.7%)、第4四半期 444千kl (103.5%) で、年度合計 1,934千kl (101.7%) と見通される。

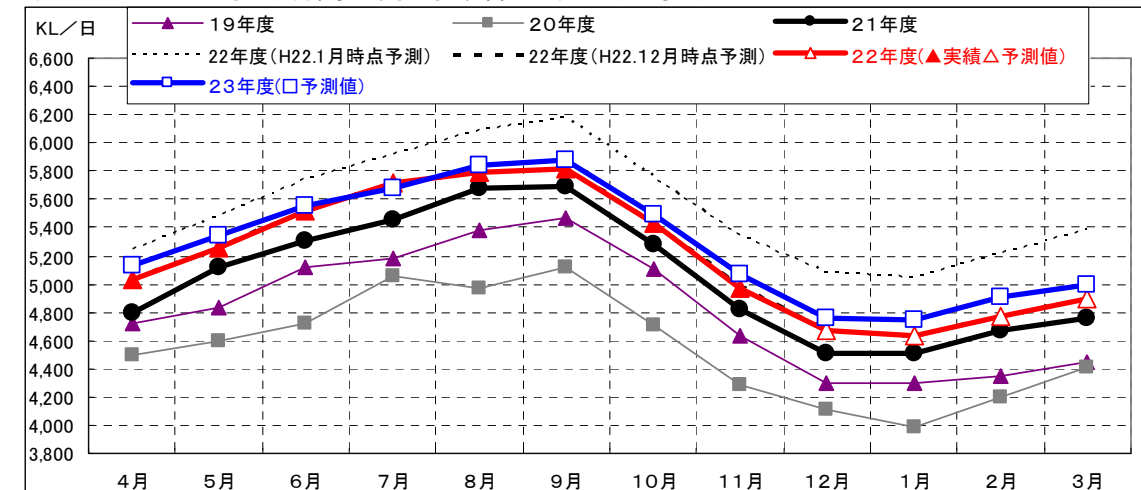
【はっ酵乳】

・第1四半期 228千kl (100.2%)、第2四半期 219千kl (99.9%)、第3四半期 200千kl (98.2%)、第4四半期 204千kl (100.9%) で、年度合計 851千kl (99.8%) と見通される。

グラフ2-1：牛乳の生産量(日均量)



グラフ2-2：加工乳・成分調整牛乳・乳飲料の生産量(日均量)



グラフ2-3：はっ酵乳の生産量(日均量)

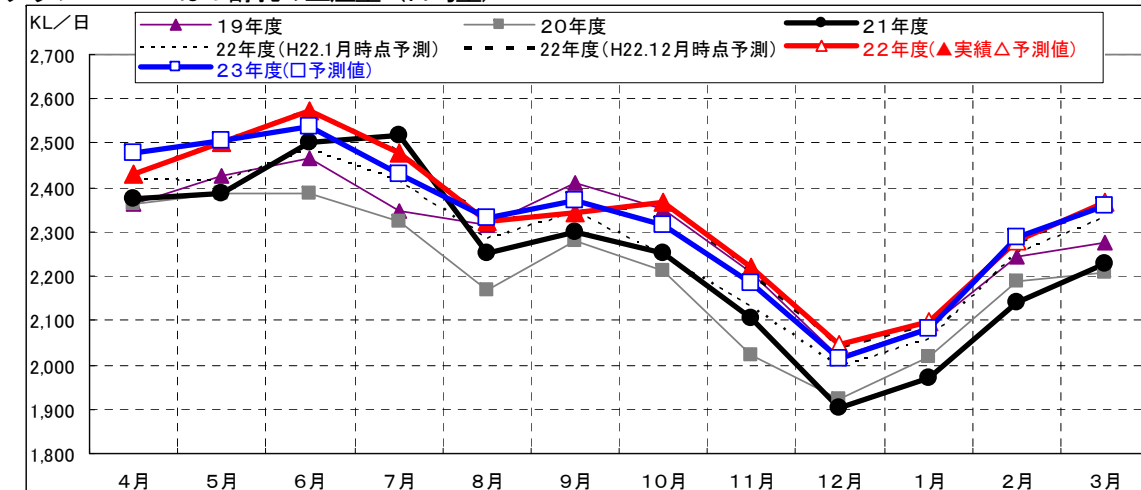


表2-1：平成22年度 牛乳等生産量の見通し

	牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳	
		前年比		前年比		前年比
4月	246	94.3%	151	104.9%	73	102.4%
5月	263	97.0%	163	102.8%	78	104.8%
6月	270	98.2%	166	104.0%	77	102.8%
7月	262	98.6%	177	104.7%	77	98.3%
8月	245	99.4%	179	101.8%	72	103.1%
9月	274	99.4%	174	102.2%	70	101.9%
10月	270	98.2%	168	102.7%	73	105.0%
11月	257	99.2%	149	103.0%	67	105.4%
12月	245	97.9%	145	103.5%	63	107.5%
1月	242	98.0%	144	102.7%	65	106.5%
2月	235	97.9%	134	102.1%	64	106.5%
3月	241	97.0%	152	102.8%	73	106.2%
第1四半期	780	96.5%	480	103.9%	228	103.4%
第2四半期	782	99.1%	531	102.9%	219	101.0%
第3四半期	772	98.4%	462	103.1%	203	105.9%
第4四半期	718	97.6%	429	102.6%	202	106.4%
上期	1,561	97.8%	1,011	103.3%	447	102.2%
下期	1,490	98.0%	891	102.8%	406	106.2%
年度	3,052	97.9%	1,902	103.1%	852	104.0%

表2-2：平成23年度 牛乳等生産量の見通し

	牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳	
		前年比		前年比		前年比
4月	241	97.8%	154	101.9%	74	101.8%
5月	258	98.1%	166	101.6%	78	100.1%
6月	262	97.0%	167	100.7%	76	98.6%
7月	250	95.5%	176	99.4%	75	98.2%
8月	237	96.7%	181	100.9%	72	100.4%
9月	264	96.5%	176	101.1%	71	101.2%
10月	259	96.1%	170	101.2%	72	97.8%
11月	246	95.8%	152	102.1%	66	98.5%
12月	232	94.9%	148	102.0%	62	98.5%
1月	231	95.2%	147	102.3%	65	99.3%
2月	234	99.5%	142	106.5%	66	104.0%
3月	229	94.8%	155	102.0%	73	99.6%
第1四半期	761	97.6%	486	101.4%	228	100.2%
第2四半期	752	96.2%	534	100.5%	219	99.9%
第3四半期	738	95.6%	470	101.7%	200	98.2%
第4四半期	693	96.5%	444	103.5%	204	100.9%
上期	1,513	96.9%	1,020	100.9%	447	100.0%
下期	1,431	96.0%	914	102.6%	404	99.6%
年度	2,944	96.5%	1,934	101.7%	851	99.8%
閏年修正						
年度	-	96.2%	-	101.4%	-	99.5%

【牛乳等生産量予測の前提】

注1) 牛乳は、「学乳」「業務用牛乳」「業務用・学乳以外の牛乳」を別々に予測した値の総量。

注2) 「加工乳・成分調整牛乳・乳飲料」は、「加工乳・成分調整牛乳」と「乳飲料」に区分して予測した値の総量。

3. 用途別処理量の動向

【生乳供給量】

・第1四半期1,946千トン(97.7%)、第2四半期1,851千トン(98.4%)、第3四半期1,820千トン(99.0%)、第4四半期1,885千トン(100.2%)で、年度合計7,502千トン(98.8%)と見通される。

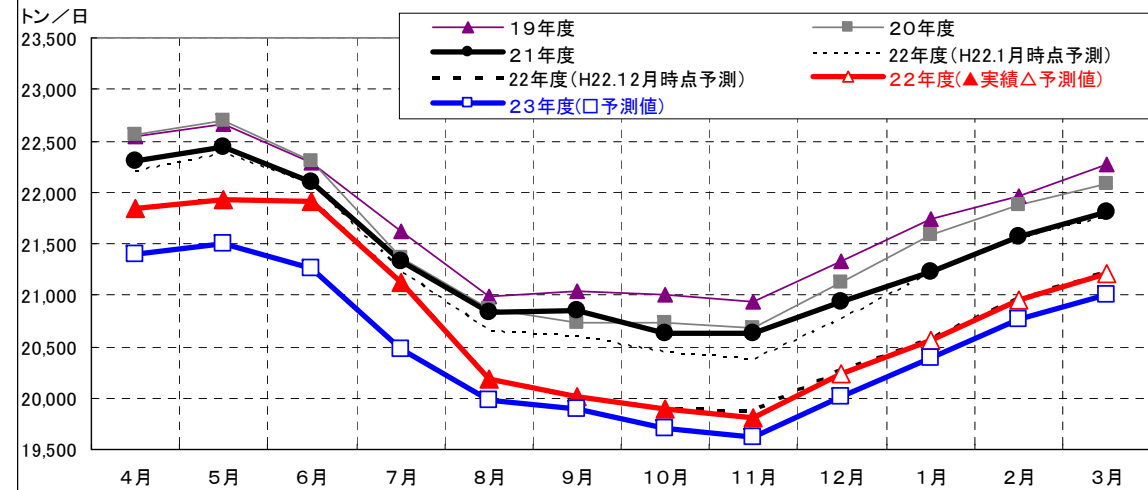
【牛乳等向生乳処理量】

・第1四半期1,040千トン(98.4%)、第2四半期1,049千トン(97.2%)、第3四半期988千トン(96.7%)、第4四半期947千トン(97.9%)で、年度合計4,024千トン(97.6%)と見通される。

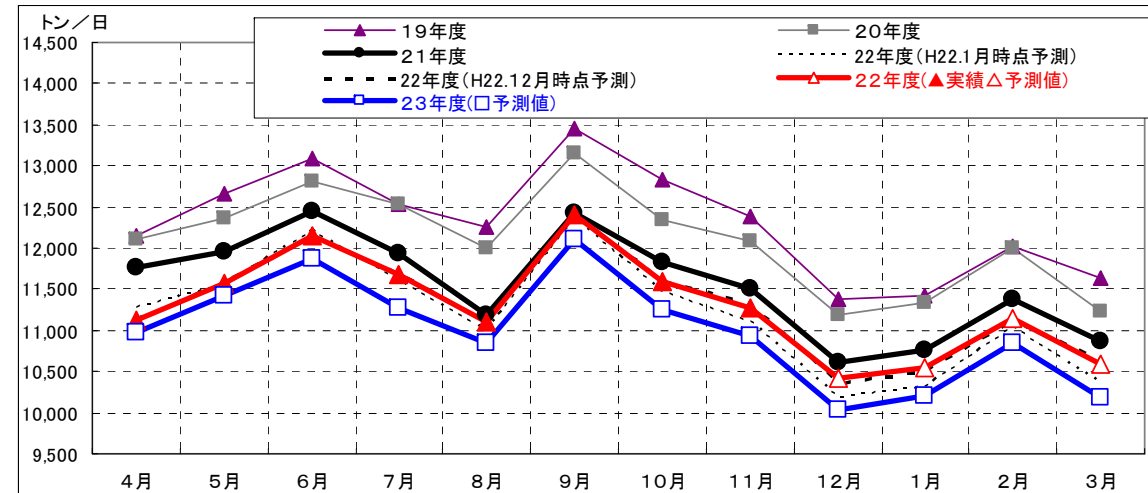
【乳製品向生乳処理量】

・乳製品向処理量は、第1四半期906千トン(96.8%)、第2四半期802千トン(100.0%)、第3四半期832千トン(101.8%)、第4四半期938千トン(102.6%)で、年度合計3,479千トン(100.3%)と見通される。

グラフ3-1：生乳供給量(全国・日均量)



グラフ3-2：牛乳等向け生乳処理量(日均量)



グラフ3-3：乳製品向け生乳処理量(日均量)

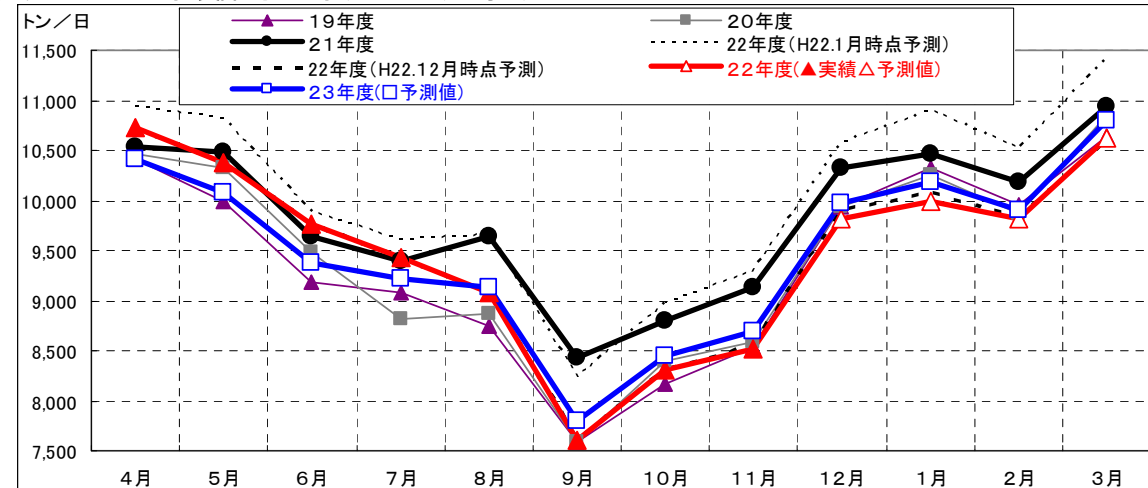


表3-1：平成22年度 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

	生乳生産量		自家消費量	生乳供給量		牛乳等向		乳製品向		
	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比	前年比			
4月	661	98.0%	6	99.5%	655	97.9%	334	94.5%	322	101.8%
5月	686	97.7%	6	93.9%	680	97.8%	358	96.7%	321	98.9%
6月	663	99.2%	6	94.0%	658	99.2%	365	97.7%	293	101.2%
7月	661	98.9%	6	91.1%	655	99.0%	362	97.9%	292	100.4%
8月	632	96.8%	6	94.8%	626	96.8%	344	99.2%	281	94.1%
9月	606	95.9%	6	94.5%	600	96.0%	372	99.8%	228	90.3%
10月	623	96.5%	6	91.9%	617	96.5%	360	98.0%	257	94.4%
11月	600	95.9%	6	90.7%	594	96.0%	338	98.1%	256	93.3%
12月	633	96.6%	6	91.1%	627	96.7%	323	98.2%	304	95.0%
1月	643	96.8%	5	89.7%	637	96.9%	327	98.1%	310	95.6%
2月	592	97.1%	5	89.4%	587	97.2%	312	98.0%	275	96.3%
3月	663	97.2%	6	90.0%	658	97.3%	328	97.4%	329	97.2%
第1四半期	2,010	98.3%	18	95.7%	1,993	98.3%	1,057	96.3%	936	100.6%
第2四半期	1,899	97.3%	18	93.5%	1,881	97.3%	1,079	99.0%	802	95.1%
第3四半期	1,857	96.3%	18	91.2%	1,838	96.4%	1,021	98.1%	817	94.3%
第4四半期	1,898	97.0%	16	89.7%	1,882	97.1%	967	97.8%	914	96.4%
上期	3,909	97.8%	36	94.6%	3,873	97.8%	2,136	97.6%	1,738	98.0%
下期	3,755	96.7%	35	90.5%	3,720	96.7%	1,989	98.0%	1,731	95.4%
年度	7,664	97.2%	70	92.5%	7,593	97.3%	4,124	97.8%	3,469	96.7%

表3-2：平成23年度 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

	生乳生産量		自家消費量	生乳供給量		牛乳等向		乳製品向		
	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比	前年比			
4月	648	97.9%	6	94.6%	642	98.0%	330	98.8%	313	97.1%
5月	672	98.0%	6	97.4%	667	98.0%	354	98.8%	312	97.2%
6月	643	97.0%	6	97.3%	638	97.0%	356	97.7%	281	96.1%
7月	641	97.0%	6	98.9%	635	96.9%	349	96.4%	286	97.7%
8月	625	99.0%	6	96.8%	619	99.0%	336	97.7%	283	100.5%
9月	603	99.4%	6	96.9%	597	99.4%	363	97.6%	234	102.5%
10月	617	99.0%	6	98.3%	611	99.0%	349	97.0%	262	101.8%
11月	595	99.1%	6	98.7%	589	99.1%	328	96.9%	261	101.9%
12月	626	98.9%	6	98.6%	620	98.9%	311	96.2%	309	101.7%
1月	638	99.2%	5	99.8%	632	99.2%	316	96.7%	316	101.9%
2月	608	102.6%	5	103.6%	602	102.6%	315	100.9%	287	104.6%
3月	657	99.0%	6	99.8%	651	99.0%	316	96.3%	335	101.7%
第1四半期	1,963	97.7%	17	96.4%	1,946	97.7%	1,040	98.4%	906	96.8%
第2四半期	1,869	98.4%	18	97.5%	1,851	98.4%	1,049	97.2%	802	100.0%
第3四半期	1,838	99.0%	18	98.5%	1,820	99.0%	988	96.7%	832	101.8%
第4四半期	1,902	100.2%	16	101.0%	1,885	100.2%	947	97.9%	938	102.6%
上期	3,832	98.0%	35	97.0%	3,797	98.0%	2,089	97.8%	1,708	98.3%
下期	3,740	99.6%	34	99.7%	3,705	99.6%	1,935	97.3%	1,770	102.3%
年度	7,571	98.8%	69	98.3%	7,502	98.8%	4,024	97.6%	3,479	100.3%
閏年修正										
年度	-	98.5%	-	98.1%	-	98.5%	-	97.3%	-	100.0%

【用途別処理量予測の前提】

- 注1) 生乳供給量は、生乳生産量から自家消費を差し引いて算出(自家消費は、各地域の過去3年の伸び率を勘案して算出)。
- 注2) 牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳・成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- 注3) 乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

4. 乳製品需給の動向

【脱脂粉乳の需給】

- ・脱脂粉乳の生産量は、年度合計で147.7千ト(98.0%)と見通される。
- ・脱脂粉乳の供給量は、現時点において、輸入売り渡し数量(カレントアクセス)を『0』と仮置きすれば、年度合計で147.7千トと見通される。
- ・脱脂粉乳の消費量は、年度合計で152.7千ト(95.0%)と見通される。
- ・脱脂粉乳の年度末の民間期末在庫量は、55.5千ト(91.7%・4.4ヶ月)と見通される。

表4：平成23年度 脱脂粉乳需給の見通し

	生産量		輸入 売渡し	供給量	消費量		在庫量		
	前年比	前年比			民間在庫量		前年比	月数	前年比
					前年比	前年比			
19年度	171.4	96.8%		171.4	197.0	105.0%	42.8	3.3	62.6%
20年度	155.3	90.6%		155.3	155.0	78.7%	43.1	3.0	100.7%
21年度	170.2	109.6%	6.1	176.3	149.7	96.6%	69.7	5.4	161.7%
22年度	150.7	88.5%	1.0	151.7	160.8	107.4%	60.5	4.9	86.9%
23年度	147.7	98.0%		147.7	152.7	95.0%	55.5	4.4	91.7%
閏年修正 23年度		97.7%				94.7%			

【バター需給】

- ・バターの生産量は、年度合計で69.3千ト(97.9%)と見通される。
- ・バターの供給量は、現時点において、輸入売り渡し数量(カレントアクセス)を『12.9千ト』と仮置きすれば、年度合計で82.2千トと見通される。
- ・バターの消費量は、年度合計で82.9千ト(98.2%)と見通される。
- ・バターの年度末の民間期末在庫量は、19.8千ト(96.4%・2.9ヶ月)と見通される。

表5：平成23年度 バター需給の見通し

	生産量		輸入 売渡し	供給量	消費量		在庫量		
	前年比	前年比			民間在庫量		前年比	月数	前年比
					前年比	前年比			
19年度	75.1	96.2%	12.2	87.3	91.0	101.6%	19.2	2.6	83.8%
20年度	71.9	95.8%	14.5	86.4	77.5	85.2%	28.1	3.7	146.1%
21年度	82.0	114.0%		82.0	77.5	100.0%	32.6	5.0	116.0%
22年度	70.8	86.4%	1.6	72.5	84.5	109.0%	20.6	3.2	63.2%
23年度	69.3	97.9%	12.9	82.2	82.9	98.2%	19.8	2.9	96.4%
閏年修正 23年度		97.6%				97.9%			

【乳製品需給予測の前提】

- 注1) 脱脂粉乳・バター消費量は、①過年度の実績、②乳製品と代替関係にある「生クリーム等向け」の処理見込み量等を基に算出。
- 注2) 脱脂粉乳生産量は、月別の特定乳製品仕向け見込み量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- 注3) バター生産量は、月別の特定乳製品仕向け見込み量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- 注4) 輸入売り渡し(カレントアクセス)数量の仮置き値を織り込んでいる。
- 注5) 乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一月当り消費量で割ることにより算出。

5. 国産生乳需要の見通し

【国産生乳需要の見通し】

- ・国産生乳需要量は、総生乳需要量から、左記のカレントアクセスの仮置き値に相当する生乳需要量を差し引いて算出すると、脱脂粉乳ベースで7,563千ト(98.2%)、バターベースで7,521千ト(95.2%)と見通される。
- ・生乳供給量の見通しと比較すると、脱脂粉乳ベースで61千ト、バターベースで19千トといずれも需要量が供給量を上回る。

表6-1：平成23年度 脱脂粉乳ベースの国産生乳需要量の見通し

	生乳供給量		国産生乳需要量				供給量と 国産需要量 の差	《参考》 供給量と 総需要量 の差		
	前年比	前年比	牛乳等向		乳製品向					
			前年比	前年比	前年比	前年比				
19年度	7,941	99.2%	8,234	101.7%	4,508	97.6%	3,725	107.3%	▲292	▲292
20年度	7,866	99.0%	7,862	95.5%	4,415	97.9%	3,447	92.5%	4	4
21年度	7,805	99.2%	7,488	95.2%	4,217	95.5%	3,271	94.9%	318	244
22年度	7,593	97.3%	7,703	102.9%	4,124	97.8%	3,579	109.4%	▲110	▲122
23年度	7,502	98.8%	7,563	98.2%	4,024	97.6%	3,539	98.9%	▲61	▲61
閏年修正 23年度	-	98.5%	-	97.9%	-	97.3%	-	98.6%		

表6-2：平成23年度 バターベースの国産生乳需要量の見通し

	生乳供給量		国産生乳需要量				供給量と 国産需要量 の差	《参考》 供給量と 総需要量 の差		
	前年比	前年比	牛乳等向		乳製品向					
			前年比	前年比	前年比	前年比				
19年度	7,941	99.2%	8,038	97.8%	4,508	97.6%	3,530	98.0%	▲97	▲416
20年度	7,866	99.0%	7,638	95.0%	4,415	97.9%	3,223	91.3%	227	▲143
21年度	7,805	99.2%	7,694	100.7%	4,217	95.5%	3,477	107.9%	111	111
22年度	7,593	97.3%	7,900	102.7%	4,124	97.8%	3,776	108.6%	▲307	▲349
23年度	7,502	98.8%	7,521	95.2%	4,024	97.6%	3,497	92.6%	▲19	▲348
閏年修正 23年度	-	98.5%	-	94.9%	-	97.3%	-	92.4%		

【生乳需要量予測の前提】

- 注1) 「4. 乳製品需給の動向」の、23年度の脱脂粉乳及びバター消費量の予測値の各々の数量及び製造係数を用いて、脱脂粉乳ベース及びバターベースの特定乳製品向け総生乳需要量を算出。
- 注2) 注1)の各々の特定乳製品向け需要量に、牛乳等向生乳量・その他乳製品向け生乳量を加算し、脱脂粉乳及びバターベース2通りの総生乳需要量を算出。
- 注3) 上記注1)において23年度の脱脂粉乳及びバターの消費量の予測値から、各々のカレントアクセス仮置き分を差し引いた数量を基に注1)～注2)の流れで算出した生乳需要を国産生乳需要量とした。

6. 23年度予測値を踏まえた、今後の酪農乳業の需給課題と対応

22年度の生乳の供給は、乳牛の飼養頭数の減少に加え、今夏猛暑の影響による生産減少が直近においても続いていると思われ、引き続き減少する見通しであること。一方で、生乳の需要は、飲用については、前年に引き続き減少する見込みであるが、乳製品については、酪農乳業関係者の連携により需要拡大が図られており、昨年と比べて需要が増加していることなどから、年度当初に想定された需給ギャップ（供給過剰）は改善され、需要が供給を上回る見通しである。その結果、脱脂粉乳及びバターは22年度末の在庫量は両製品とも前年を下回る見通しである。

23年度は、生乳供給量及び生乳需要量両方が減少するが、結果として、22年度同様に需要が供給を上回ることが見込まれるため、乳製品在庫は更に減少する見通しである。

こうした中で、23年度における国内需給に影響を及ぼすと思われる外的要素（天候、海外の需給動向、国内外の景気動向、等）が不透明であることから、酪農乳業関係者は、今後、次の事項について、特に、取り組んでいく必要がある。

1. 的確な需給調整対応の実施

現時点の見通しでは、23年度においても、需要が供給を上回る見通しであることから、酪農乳業関係者連携のもと、今後の需給動向を注視し、引き続き、国産牛乳乳製品の安定的な供給に努め、需要の喪失が起らないような需給調整対応を行う。

2. 生乳需要拡大のための取組

国産牛乳乳製品に関する価値の向上及び消費者等への価値訴求等に努める。

3. 生産・消費動向の把握と需給情報の共有化の強化

酪農乳業関係者は、国内外の需給動向や景気動向等に関する的確な情報（特に、乳製品需要、生乳生産力にかかる定量的な情報）の収集・分析・共有を強化する。

7. 22年度春休み時期における都府県需給の見通しと対応

【都府県の生乳需給見通し】

- ・都府県における北海道からの搬入必要量（需要量）は7月以降に前年を上回り、12月以降も同様に前年を上回って推移すると見込まれる。
- ・都府県における特定乳製品向け処理量は、5月以降減少に転じ、前年を下回って推移している。現状の基調で推移すると、12月以降も前年を下回る水準で推移する見込みであり、学乳が休止する年末年始時期の特定乳製品向け処理量は12月：32千ト（前年比80.5%）、1月：36千ト（84.3%）と見通される。
- ・また、春休み時期の3月の特定乳製品向け処理量は49千ト（94.3%）と見通される。

表7：平成22年度 都府県の生乳需給の見通し

	生乳供給量 A		牛乳等向 B		その他乳製品向 C		A-B-C	移入量 (必要量)		特定乳製品向	
		前年比		前年比		前年比			前年比		前年比
4月	334	96.7%	296	94.6%	14	85.8%	24	21	95.6%	45	117.7%
5月	341	96.8%	319	96.9%	13	93.3%	9	24	100.3%	33	99.6%
6月	321	97.8%	325	97.9%	13	97.3%	-18	33	96.4%	16	92.9%
7月	315	97.4%	320	97.9%	14	97.4%	-20	40	101.9%	20	97.0%
8月	299	95.1%	303	99.1%	15	94.2%	-18	39	118.1%	21	78.5%
9月	288	92.9%	327	99.1%	13	82.9%	-53	60	125.0%	7	64.1%
10月	302	94.8%	318	97.8%	15	98.3%	-31	42	115.4%	12	77.3%
11月	292	94.1%	298	97.8%	15	96.1%	-20	33	109.1%	13	60.4%
12月	309	94.7%	285	98.0%	17	94.2%	7	26	110.4%	32	80.5%
1月	315	95.5%	290	97.8%	14	93.8%	12	24	104.1%	36	84.3%
2月	293	96.0%	276	97.7%	13	93.5%	4	23	102.4%	28	86.5%
3月	331	96.3%	290	97.4%	15	94.0%	27	22	103.9%	49	94.3%
第1四半期	996	97.1%	940	96.5%	40	91.7%	16	79	97.4%	94	106.1%
第2四半期	902	95.2%	951	98.7%	42	91.4%	-91	140	115.6%	49	82.2%
第3四半期	903	94.5%	901	97.8%	46	96.1%	-44	101	112.0%	57	74.4%
第4四半期	940	95.9%	855	97.6%	42	93.8%	43	69	103.5%	112	89.0%
上期	1,897	96.2%	1,890	97.6%	82	91.5%	-75	219	108.3%	143	96.5%
下期	1,843	95.2%	1,756	97.7%	88	95.0%	-1	170	108.4%	169	83.5%
年度	3,740	95.7%	3,646	97.7%	170	93.3%	-76	389	108.3%	312	89.0%

【飲用牛乳類の不需要期（春休み時期）の対応】

現時点の需給状況を踏まえると、都府県における特定乳製品向け処理量は、学校給食用の牛乳の供給が休止される3月の春休みの期間は前年を下回る水準で推移すると見通される。しかしながら、余乳処理は、年末・年始・春休み時期等の特定期間に集中することや、処理能力には限界があり、需給のわずかな変動及び処理予定乳製品工場の稼働状況等によっても大きな混乱が生じること等も想定される。

- (1) このため、生乳取引当事者においては、日々の需給動向及び余乳発生状況等の情報を共有し、正確な配乳計画や処理計画を策定の上、適切なオーダー・配乳調整に努める。
- (2) 生産者団体及び乳業者は、前年同様、必要に応じて、不需要期に向けた対応策を検討する。

【都府県の生乳需給予測の前提】

- 注1) 牛乳等向は、北海道の牛乳等向生乳量を予測し全国の数値から差し引くことで算出。
- 注2) 需要期の特定乳製品向は、過去5年間の当該月の特定乳製品向の平均水準を基本とし直近の動向を加味し算出。
- 注3) その他乳製品向については直近の動向を踏まえ設定。
- 注4) 北海道からの移入必要量は、ブランド対応分として日均約700トを前提とし算出。